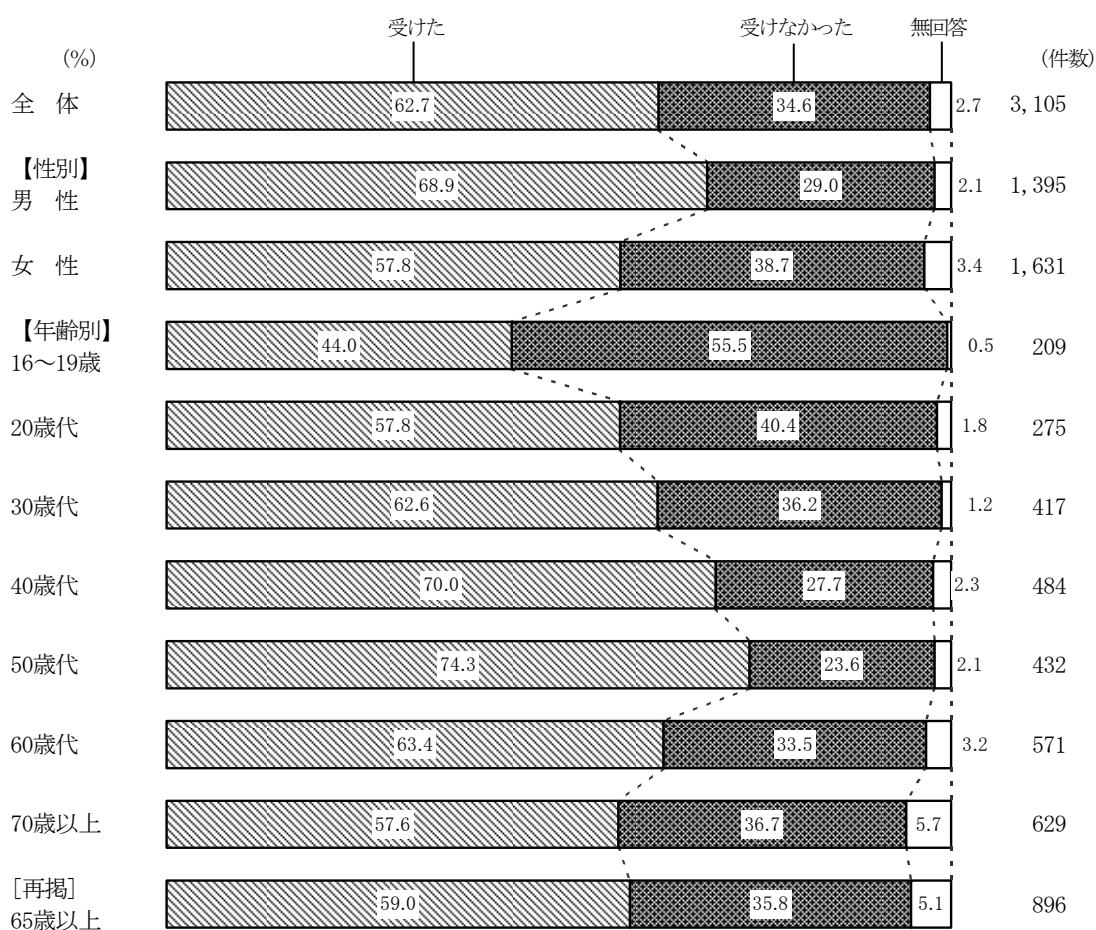


10 健診（健康診断、健康診査）の受診状況

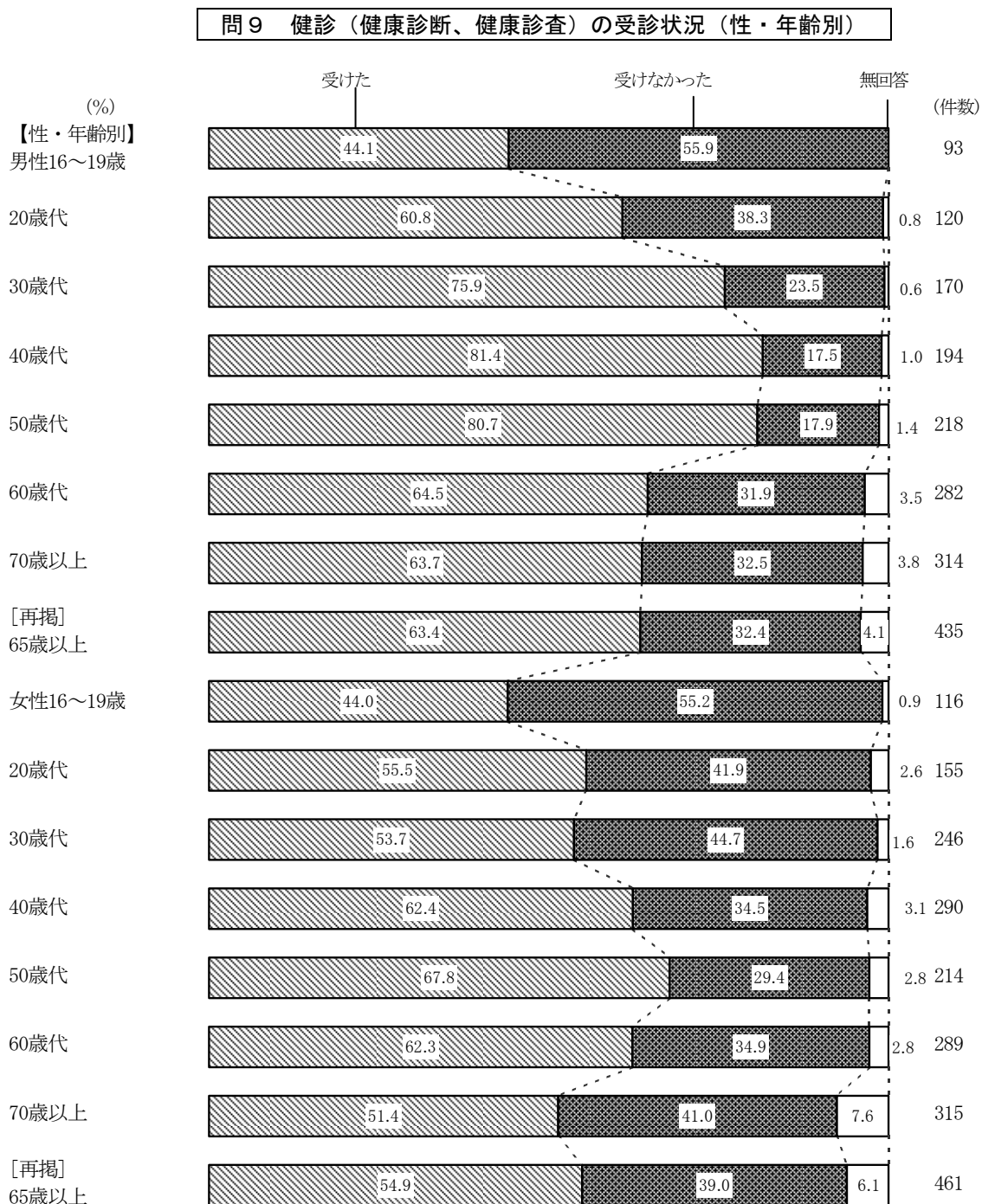
問9 あなたは、過去1年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けましたか。（1つだけ）※がンのみの検診、妊産婦検診、歯の健康診査、病院や診療所で行う診療としての検査は、健診に含まない。

- 過去1年間の健康診断の受診状況については、「受けた」人が62.7%、「受けなかった」人が34.6%となっており、およそ3人に1人は健康診断を受けていない。
- 性別でみると、「受けた」人は、女性（57.8%）よりも男性（68.9%）で高くなっている。
- 年齢別でみると、「受けた」人は、40歳代、50歳代では7割以上を占めているが、20歳代及び70歳以上では5割台、16～19歳は4割台にとどまっている。

問9 健診（健康診断、健康診査）の受診状況（全体・性別・年齢別）

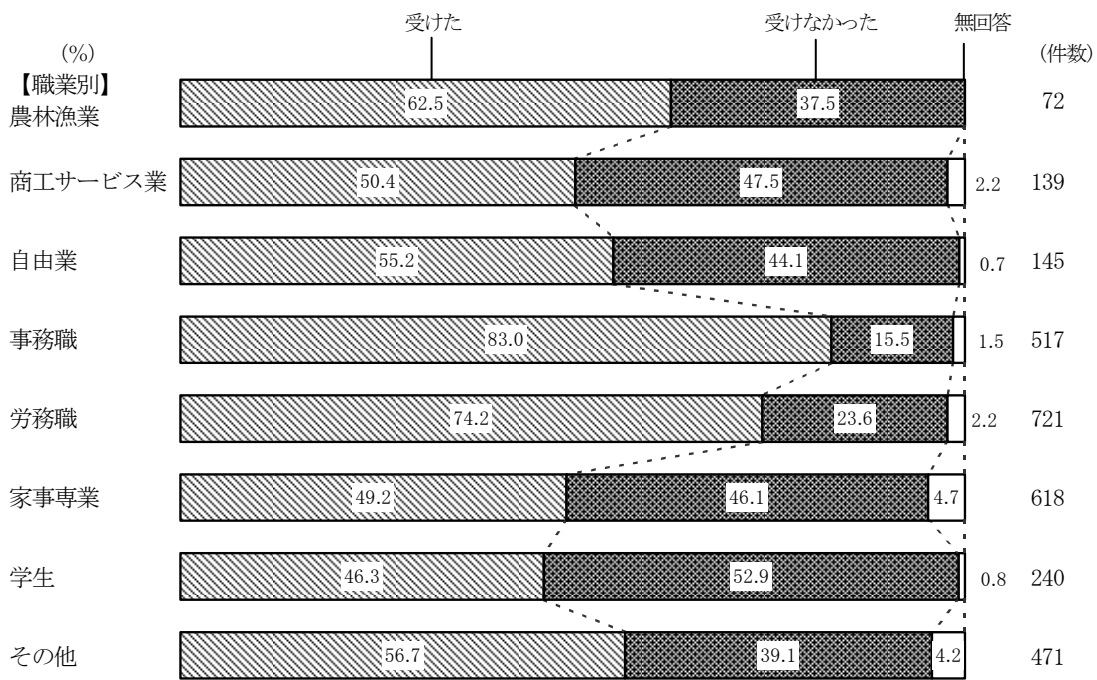


- 性・年齢別で見ると、健康診断を「受けた」人は、男性の40歳代、50歳代が8割台、30歳代が7割台で高くなっている。一方、「受けなかった」人は、男性の16～19歳、女性の16～19歳が5割台で高くなっている。



- 職業別でみると、健康診断を「受けた」人は、事務職（83.0%）、「労務職」（74.2%）での割合が高くなっている。一方、「受けなかった」人は、「商工サービス業」（47.5%）、「自由業」（44.1%）、「家事専業」（46.1%）、「学生」（52.9%）での割合が高くなっている。

問9 健診（健康診断、健康診査）の受診状況（職業別）



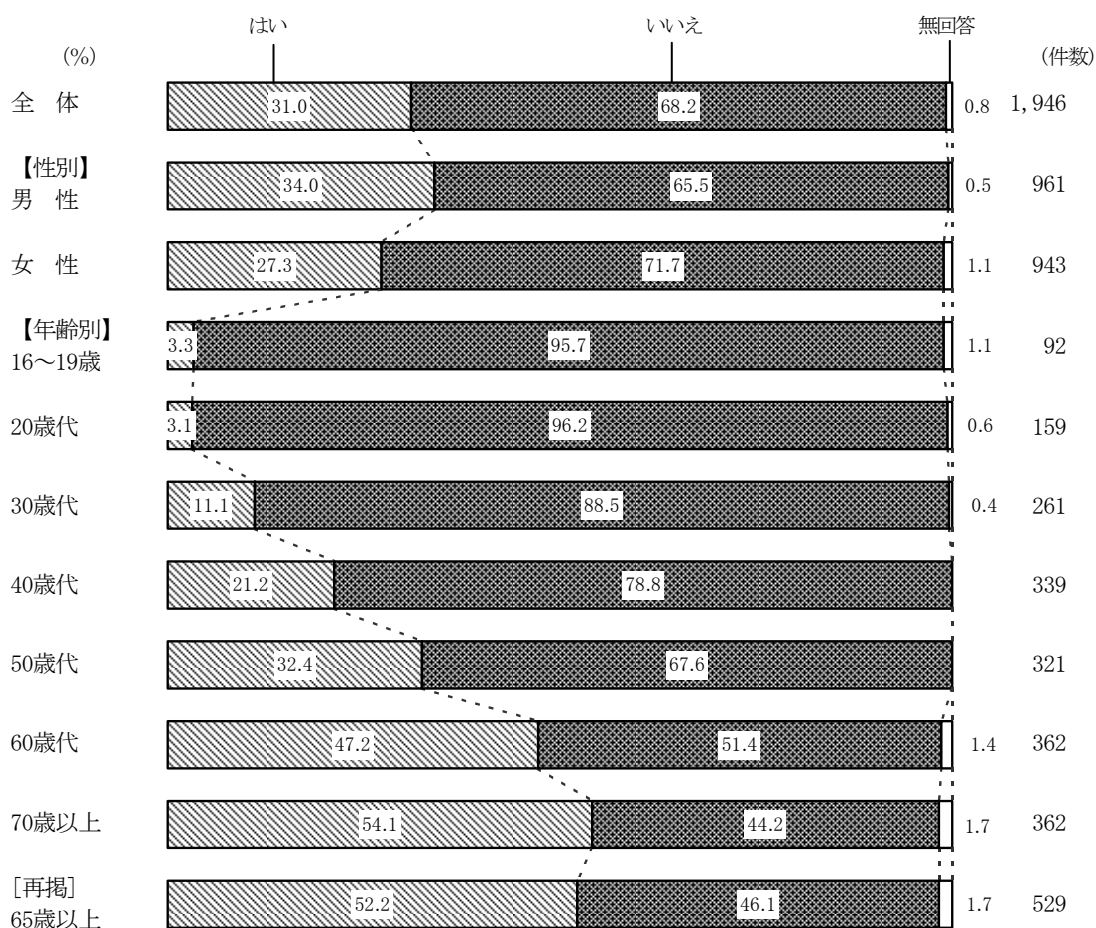
11 健診結果の要医療の状況

<問9で1と回答した方にお尋ねします。>

問9-1 健診の結果、肥満、高血圧症（血圧が高い）、糖尿病（血糖が高い）、血中の脂質異常に関する指摘を受け、最終的に医療機関を受診するように勧められましたか。※検査目的の受診は除きます。（1つだけ）

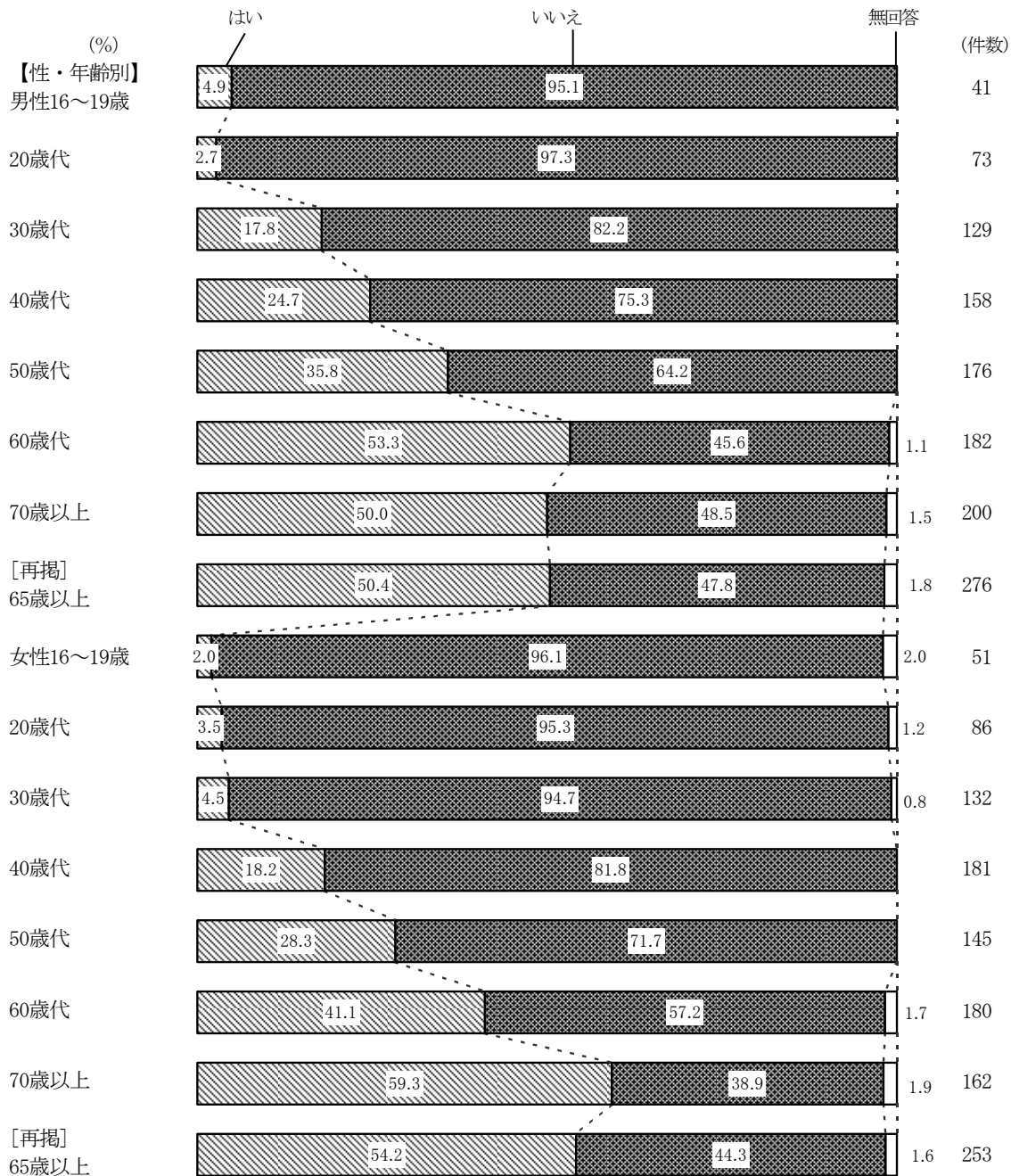
- 健診等の結果「要医療」と診断された人は、全体の約3割（31.0%）となっている。
- 性別で見ると、要医療と診断された人は、女性（27.3%）よりも男性（34.0%）で高くなっている。
- 年齢別で見ると、要医療と診断された人は、20歳代以下では1割未満にとどまっているが、年代が上がるほど割合が高くなり、60歳代では4割台、70歳以上では5割以上を占めている。

問9-1 健診結果の要医療の状況（全体・性別・年齢別）



- 性・年齢別でみると、要医療と診断された人は、男性の60歳代、70歳以上、女性の70歳以上が5割台、女性の60歳代が4割台で高くなっている。

問9-1 健診結果の要医療の状況（性・年齢別）



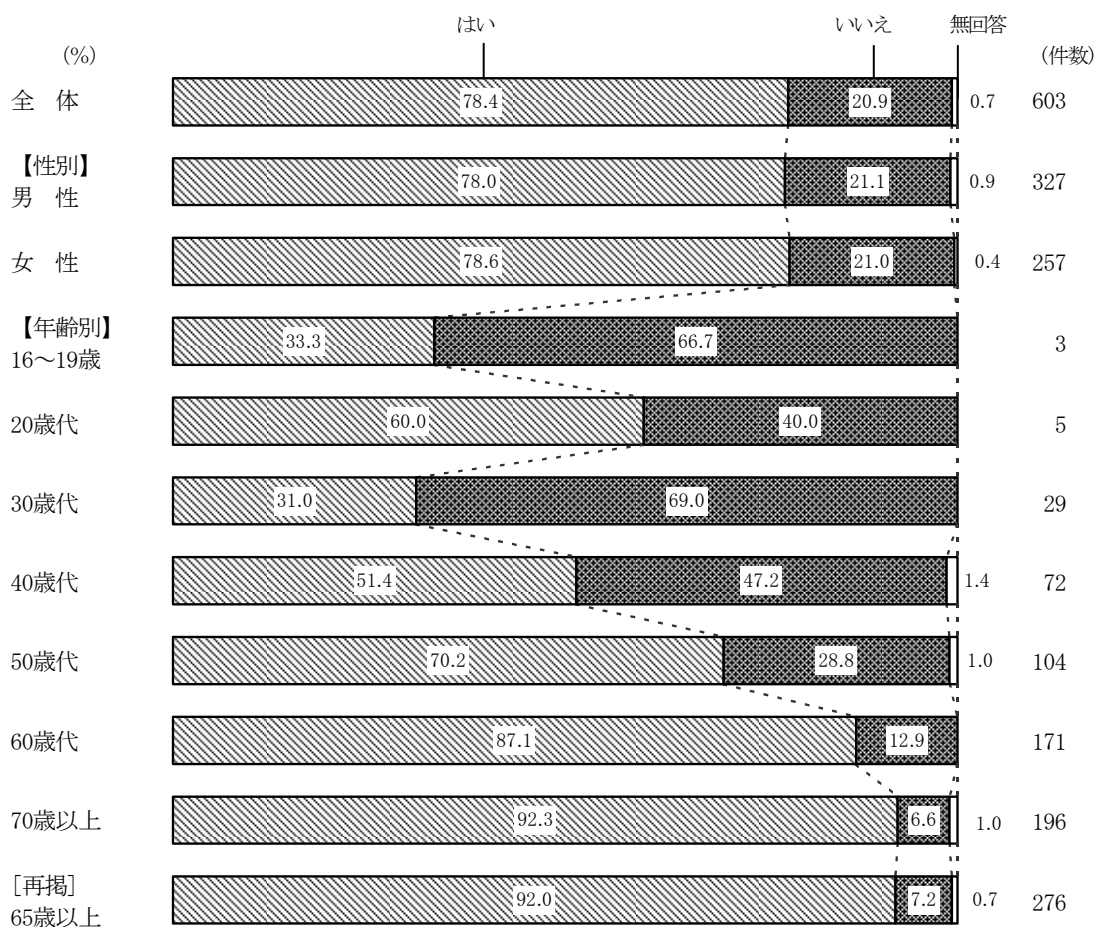
12 要医療者の医療機関の受診状況

<問9-1で1と回答した方にお尋ねします。>

問9-2 その後、医療機関に行きましたか。(1つだけ)

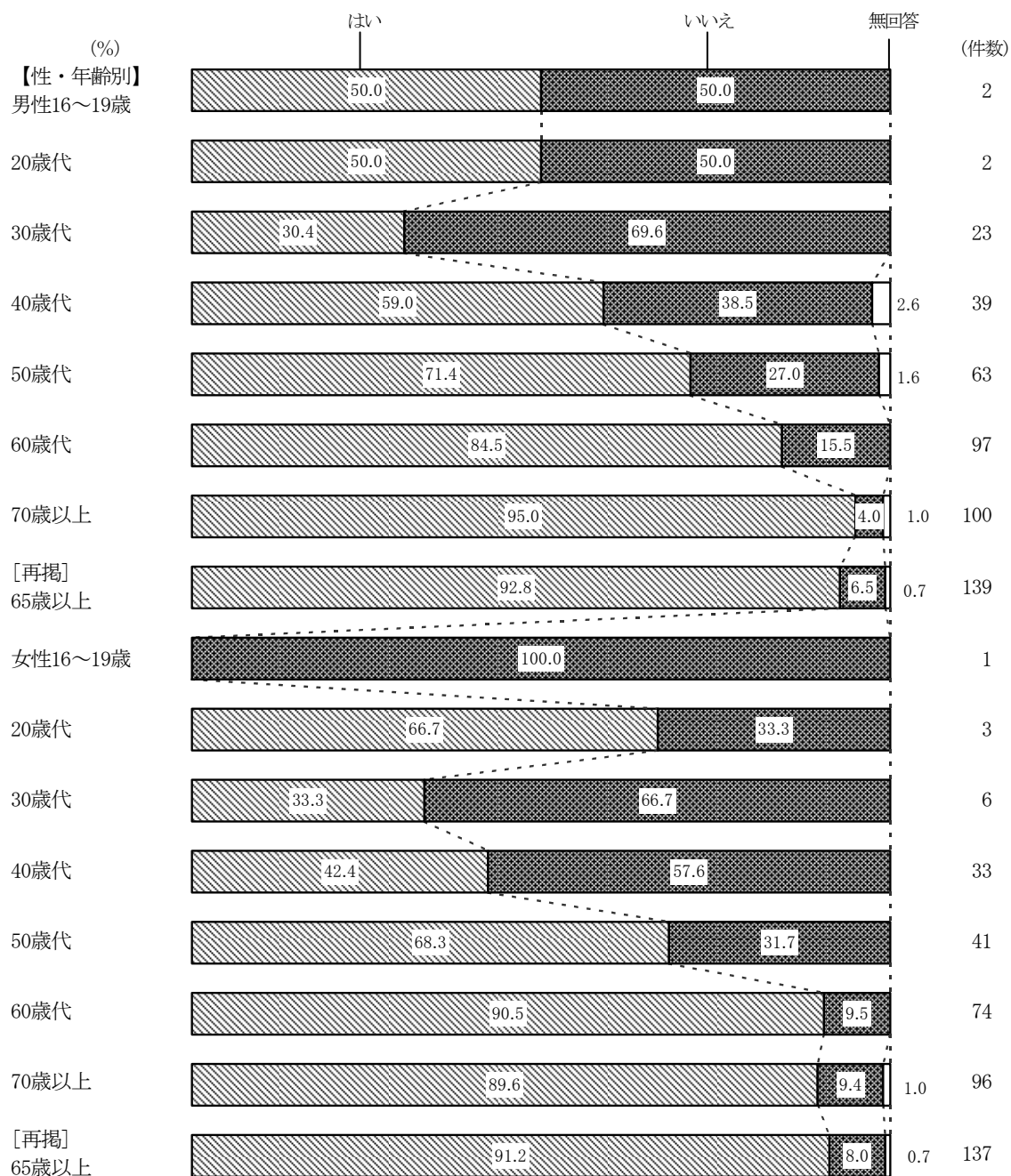
- 健診等で要医療と診断された後、医療機関に行った人は、78.4%と、8割近くを占めている。
- 性別にみても大きな差はみられない。
- 年齢別で見ると、医療機関に行った人は、60歳代及び70歳以上で9割前後と高くなっており、30歳代では3割台、40歳代では5割台にとどまっている。

問9-2 要医療者の医療機関の受診状況（全体・性別・年齢別）



- 性・年齢別でみると、医療機関に行った人は、男性の70歳以上及び女性の60歳代で9割台、男性の60歳代及び女性の70歳以上で8割台と高くなっている。

問9-2 要医療者の医療機関の受診状況（性・年齢別）

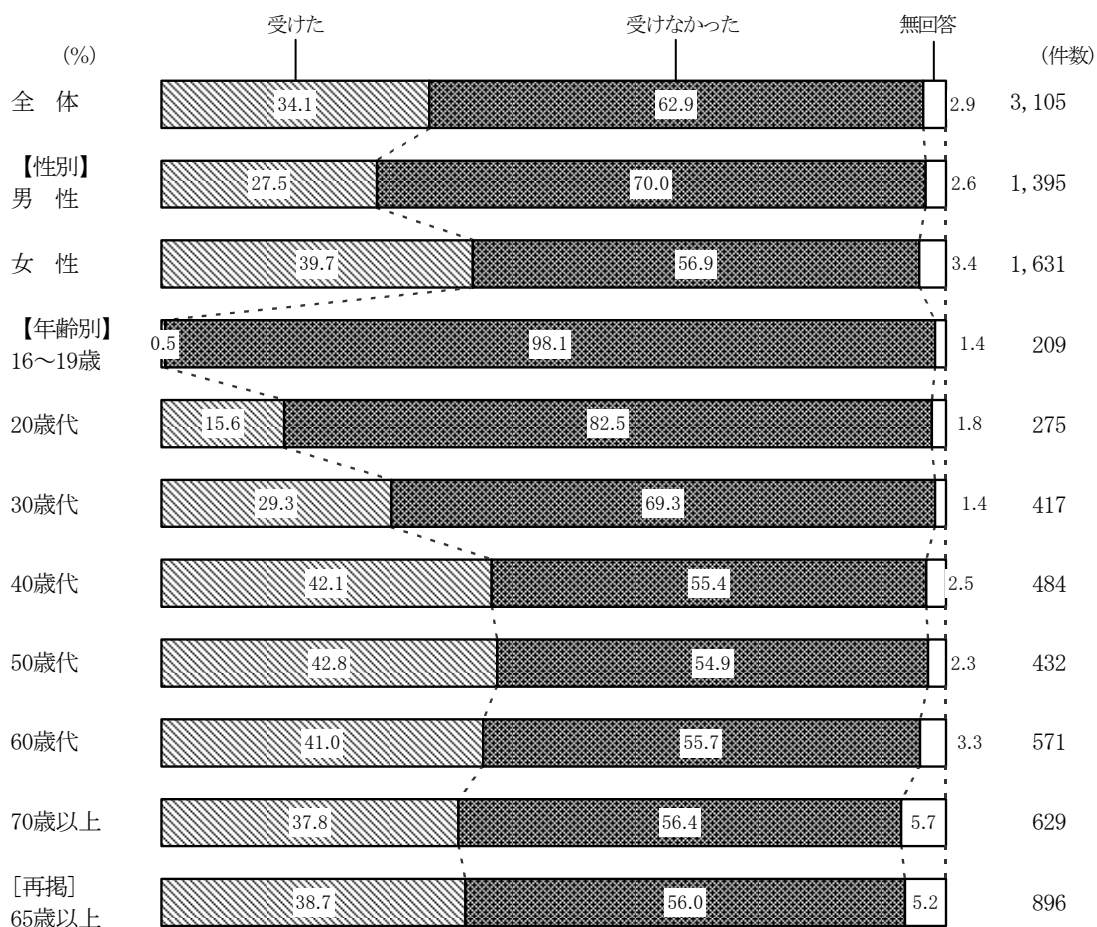


13 がん検診の受診状況

問10 あなたは、過去1年間にがん検診（胃がん、肺がん、乳がん、子宮がん、大腸がん、その他のがん）を受けましたか（1つだけ）

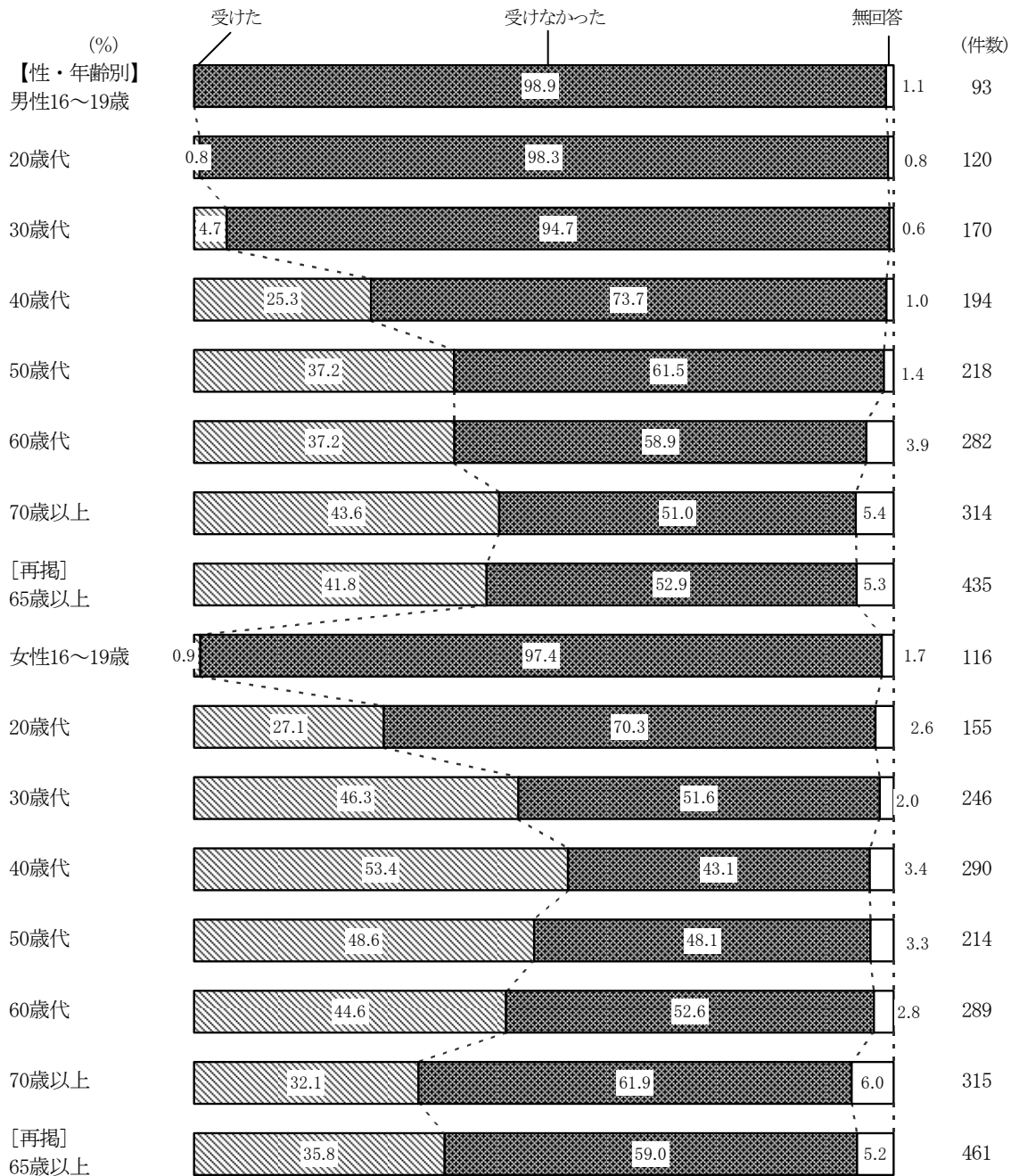
- がん検診の受診状況については、過去1年間に「受けた」人は34.1%となっており、およそ3人に1人ががん検診を受けている。
- 性別で見ると、「受けた」人は、男性（27.5%）よりも女性（39.7%）の割合が高くなっている。
- 年齢別で見ると、「受けた」人は、40歳代、50歳代、60歳代で4割台と高くなっているが、16～19歳では1%未満、20歳代では1割台と低くなっている。

問10 がん検診の受診状況（全体・性別・年齢別）



- 性・年齢別でみると、「受けた」人は、女性の40歳代で5割台、男性の70歳以上、女性の30歳代、50歳代、60歳代で4割台と高くなっているが、男性の30歳代以下、女性の16～19歳では1割未満にとどまっている。

問10 がん検診の受診状況（性・年齢別）



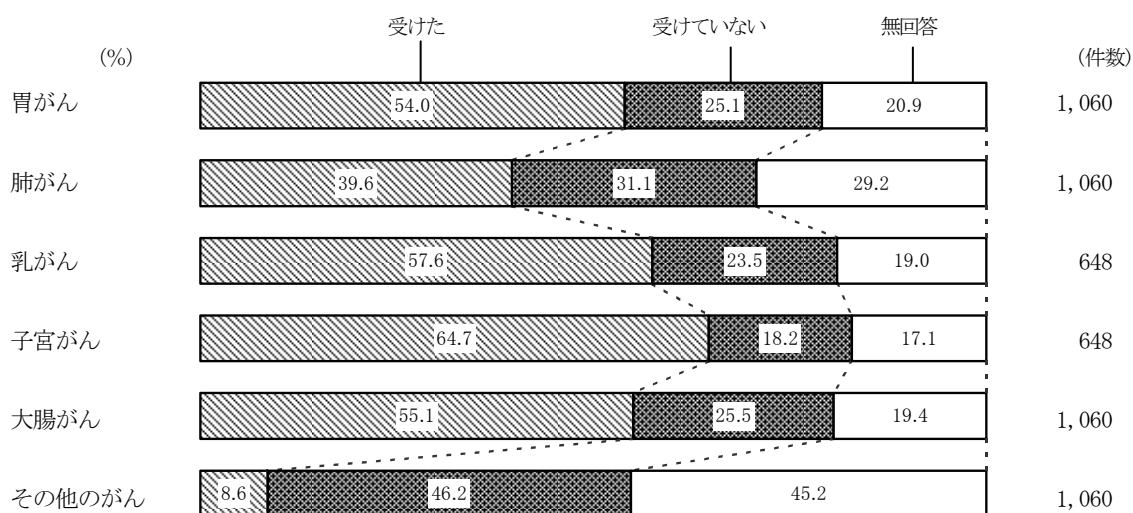
14 項目別がん検診の受診状況

<問10で1と回答した方にお尋ねします。>

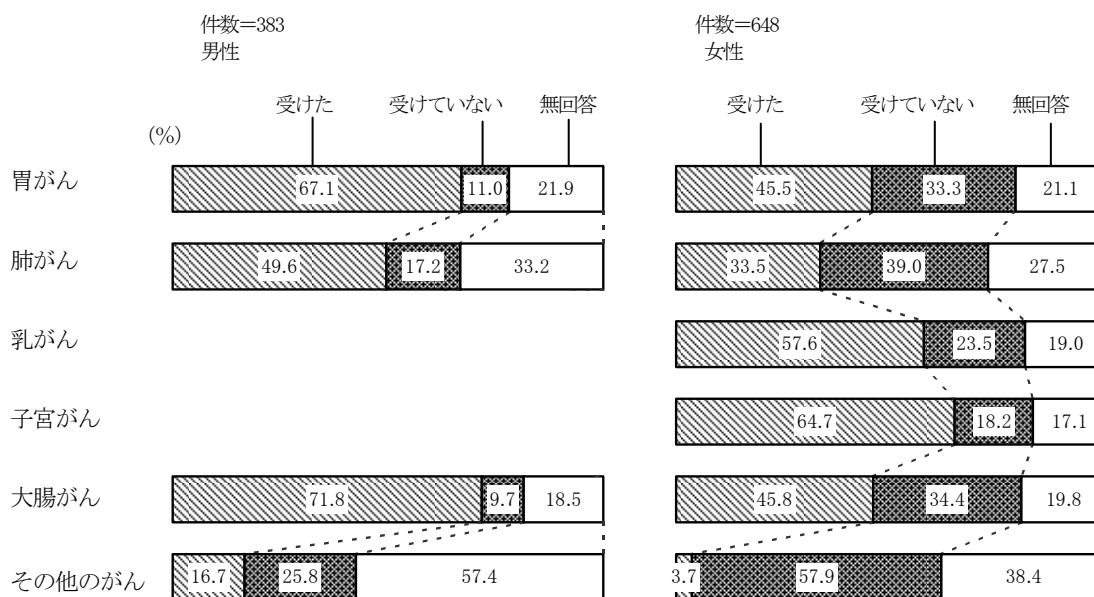
問10-1 あなたは、過去1年間に以下のがん検診を受けましたか。(1つだけ)
また、それはどこが実施するものでしたか。(いくつでも)

- がん検診を受けた項目は、「子宮がん」が64.7%で最も高く、次いで「乳がん」が57.6%、「大腸がん」が55.1%、「胃がん」が54.0%、「肺がん」が39.6%、「その他のがん」が8.6%となっている。
- 性別で見ると、「胃がん」「肺がん」「大腸がん」「その他のがん」の検診を「受けていない」人は、男性よりも女性の割合が高くなっている。

問10-1 がん検診の受診状況 (全体)



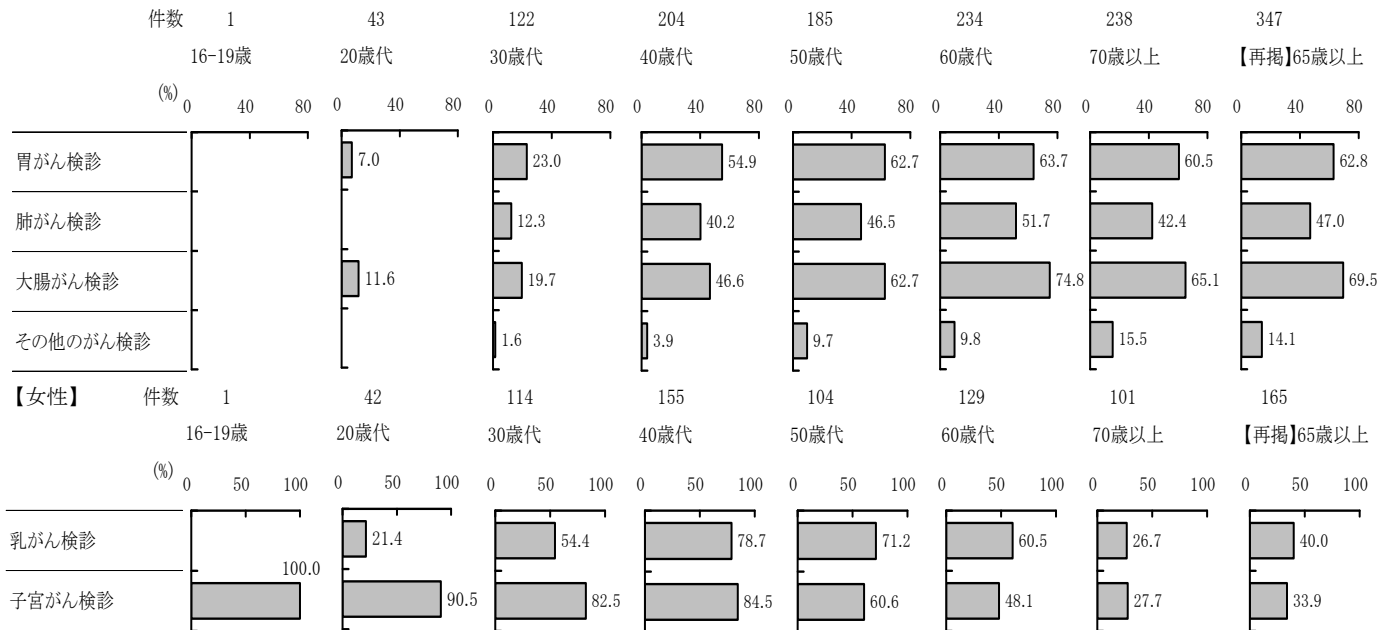
問10-1 がん検診の受診状況 (性別)



- がん検診を受けたと答えた人を年齢別でみると、「胃がん」、「大腸がん」は50歳代以上で6割以上、「肺がん」は60歳代で5割以上となっている。また、「乳がん」は40歳代及び50歳代で7割以上、「子宮がん」は20歳代から40歳代で8割以上となっている。
- 性・年齢別でみると、「胃がん」「肺がん」「大腸がん」検診は、男性の40歳代から60歳代での受診が高くなっている。

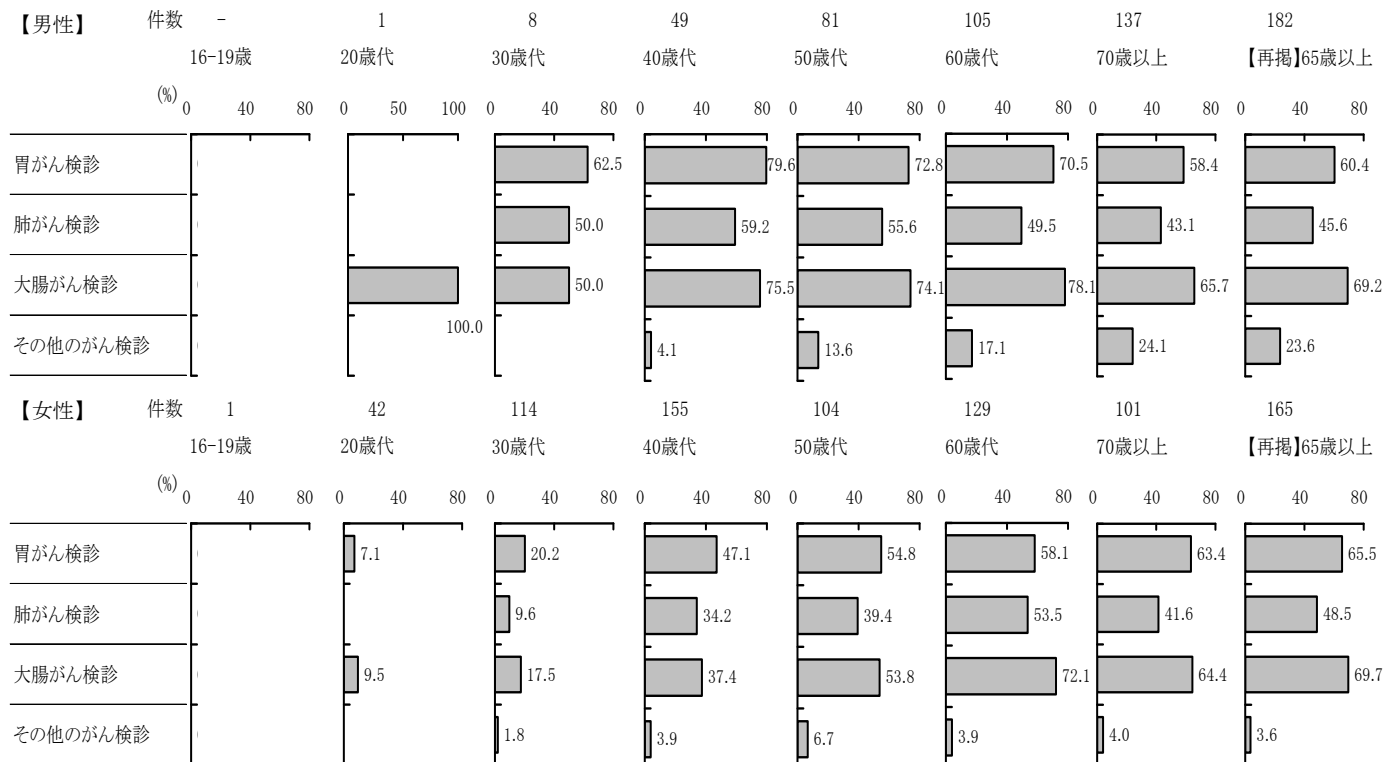
問10-1 がん検診の受診状況（年齢別）

【受けたと答えた人の割合】



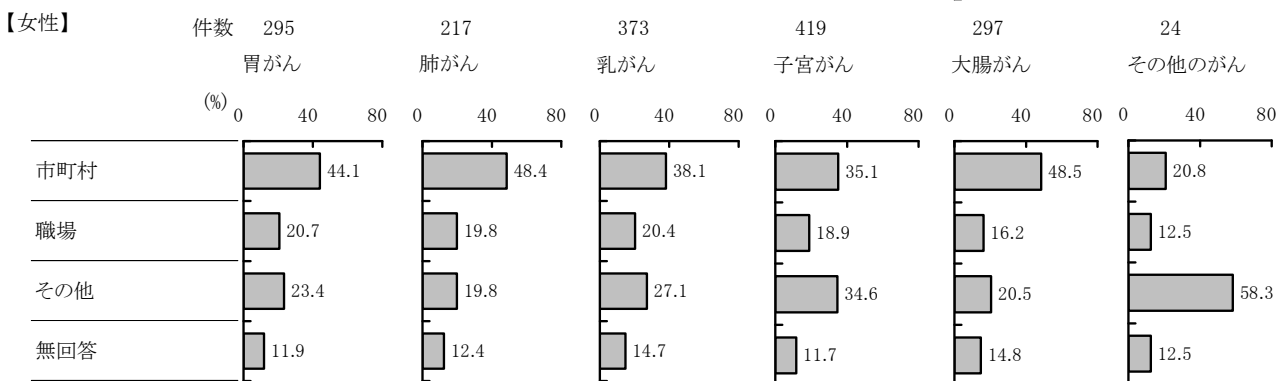
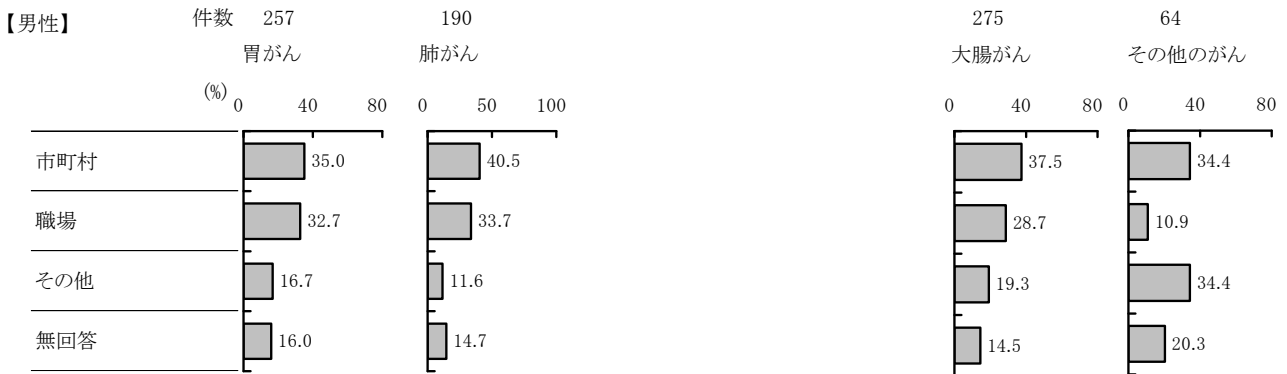
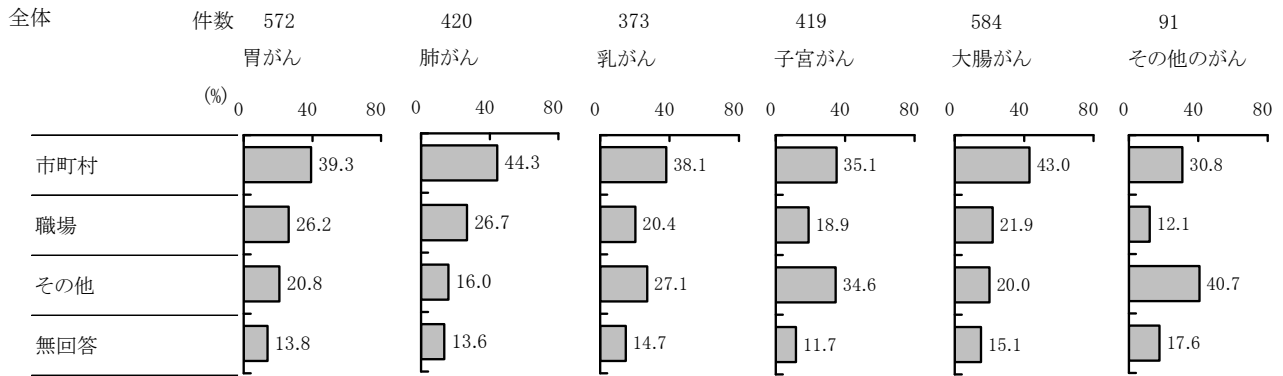
問10-1 がん検診の受診状況（性・年齢別）

【受けたと答えた人の割合】



- がん検診を受診した機関は、その他のがん検診以外では市町村の割合が最も高くなっている。
- 性別でみると、その他のがんを除くがん検診では、男性は職場での受診が女性より高く、女性は市町村での受診が男性より高くなっている。

問10-1 がん検診の受診機関（全体、性別）

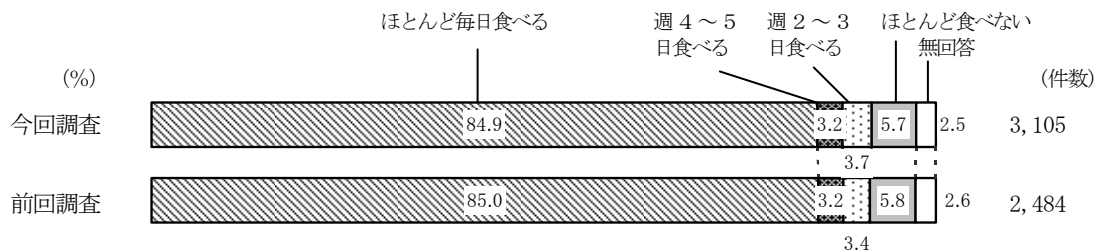


15 朝食の摂取状況

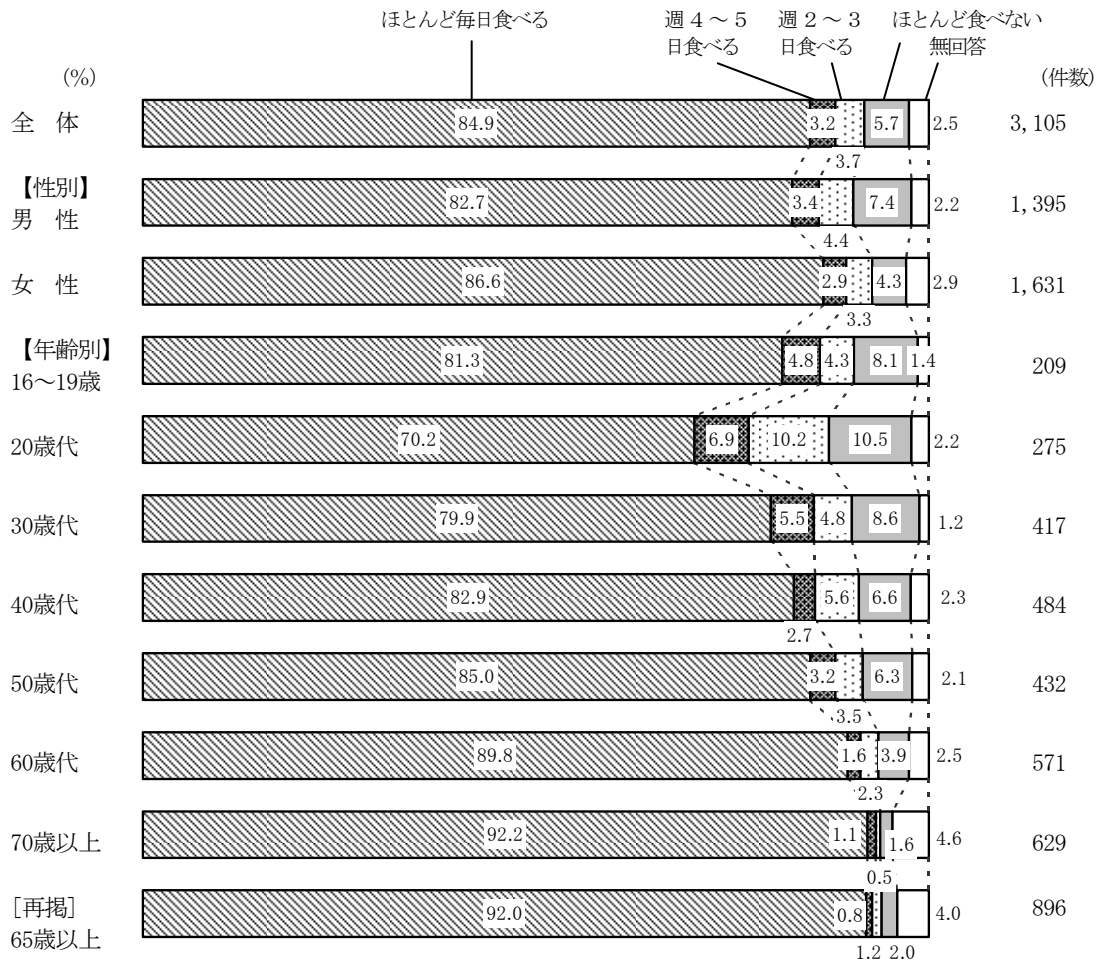
問11 あなたは、朝食を食べますか。(1つだけ)

- 朝食を食べることについては、8割以上の方が「ほとんど毎日食べる」(84.9%)と回答している。一方、「ほとんど食べない」習慣の人は、5.7%となっている。
- 前回調査と比較しても大きな差はみられない。
- 性別で見ると、「ほとんど食べない」人は、女性(4.3%)よりも男性(7.4%)で高くなっている。
- 年齢別で見ると、「ほとんど食べない」人は、20歳代が10.5%で最も高く、30歳代(8.6%)、40歳代(6.6%)と続いている。

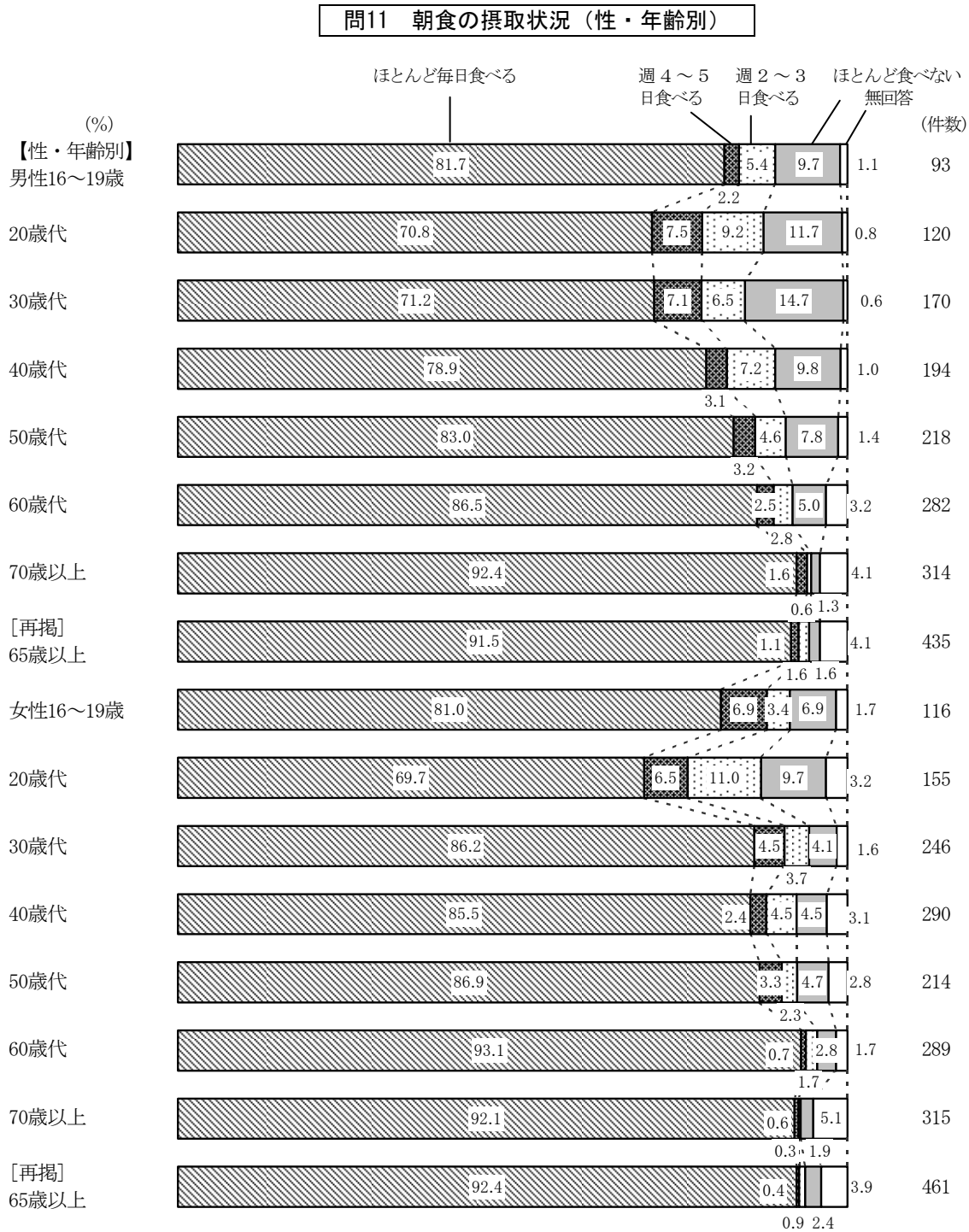
問11 朝食の摂取状況(全体・性別)



問11 朝食の摂取状況(全体・性別・年齢別)



- 性・年齢別で見ると、朝食を「ほとんど食べない」人は、男性の40歳代以下と女性の20歳代で1割前後と高くなっている。

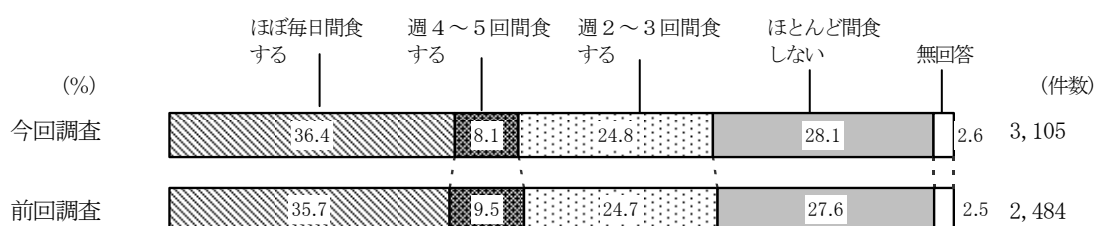


16 間食の摂取状況

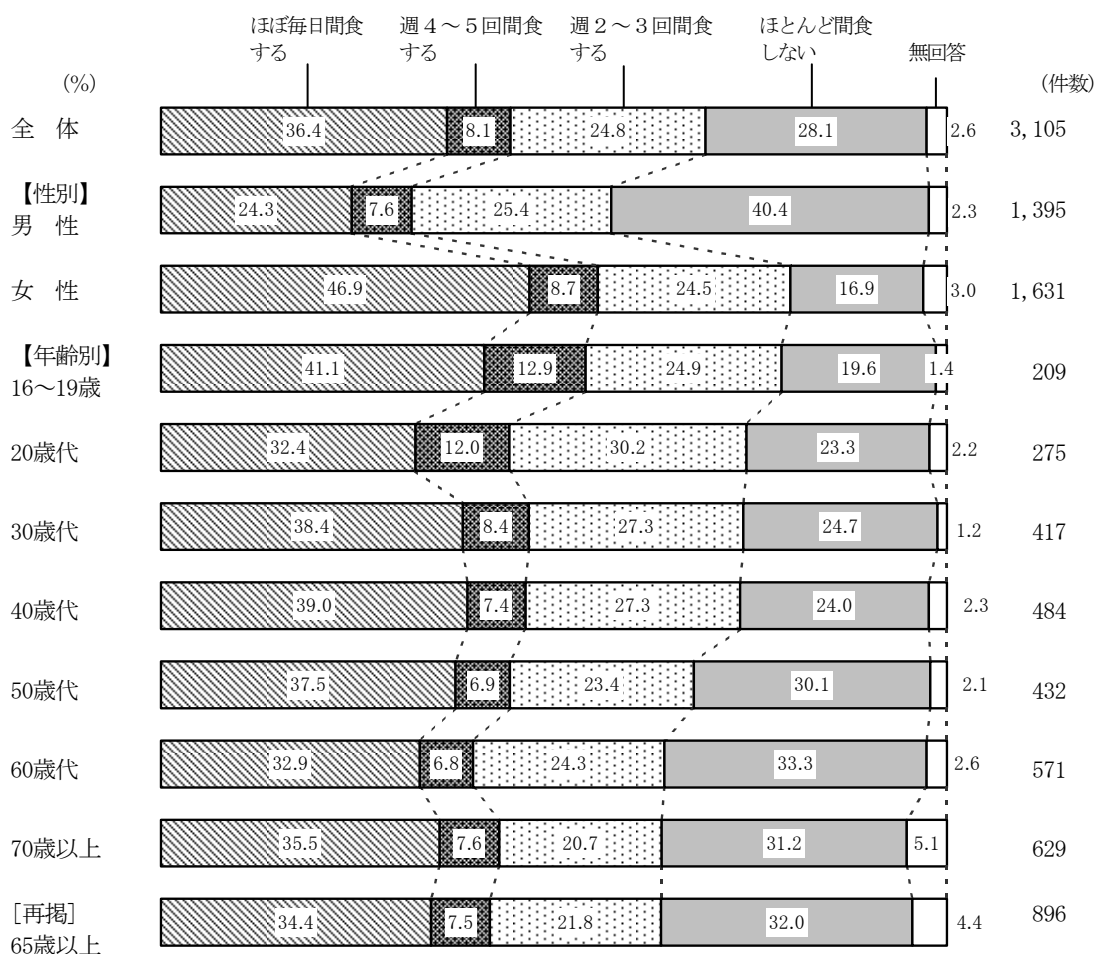
問12 あなたは、間食をしますか。(1つだけ)

- 間食については、「ほぼ毎日間食する」が36.4%と最も高くなっている。これに「週4～5回間食する」(8.1%)、「週2～3回間食する」(24.8%)をあわせると、『間食する』人の割合は69.3%となり、およそ7割を占めている。
- 前回調査と比較しても大きな差はみられない。
- 性別で見ると、「ほぼ毎日間食する」は、男性(24.3%)よりも女性(46.9%)で高くなっている。
- 年齢別で見ると、「ほとんど間食しない」は、60歳代(33.3%)が最も高く、16～19歳(19.6%)が最も低くなっている。

問12 間食の摂取状況 (前回調査との比較)

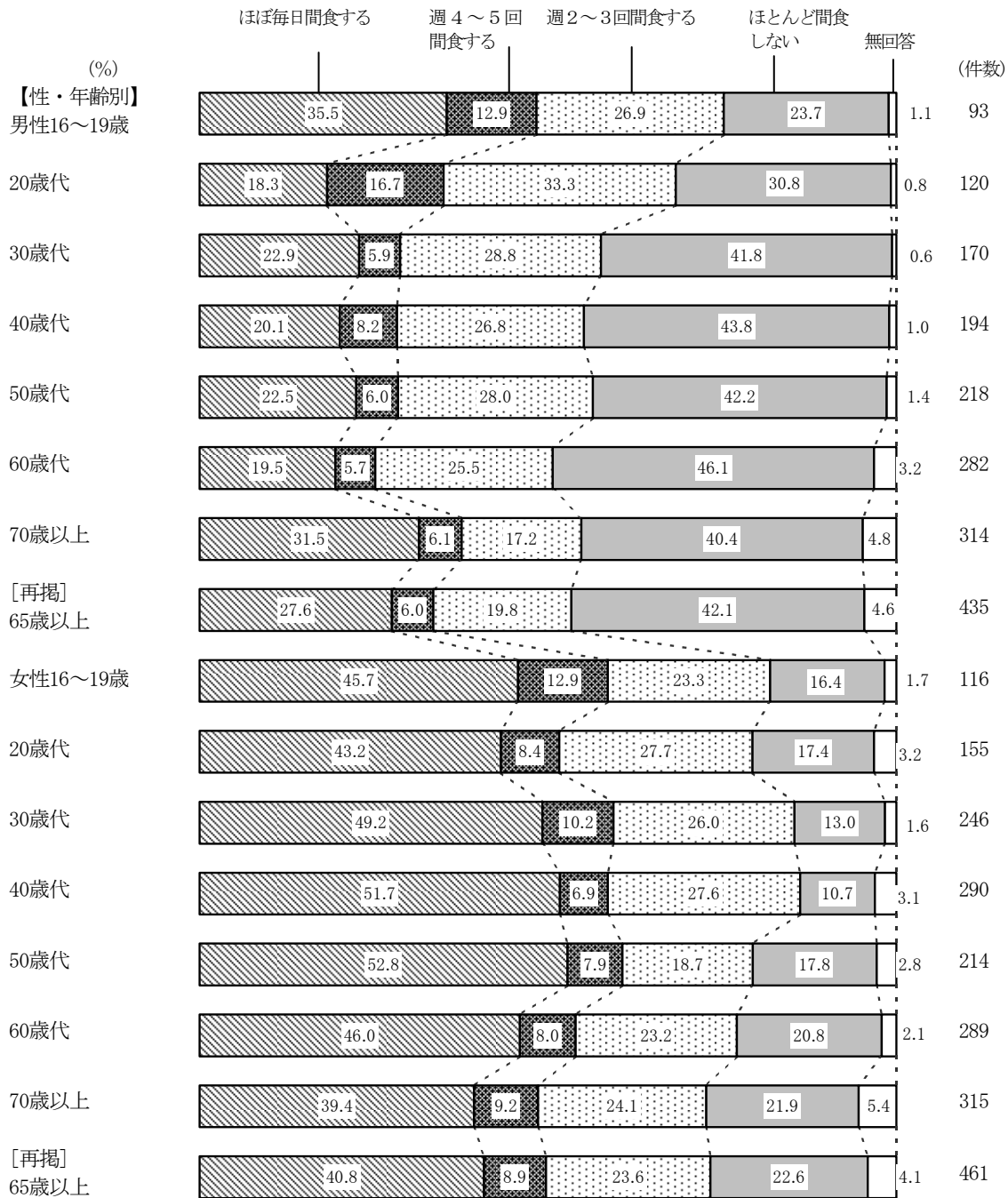


問12 間食の摂取状況 (全体・性別・年齢別)



- 性・年齢別で見ると、「ほぼ毎日間食する」は、女性の40歳代及び50歳代で5割台と高くなっている。一方、「ほとんど間食しない」人は、男性の30歳代以上で4割台と高くなっている。

問12 間食の摂取状況（性・年齢別）

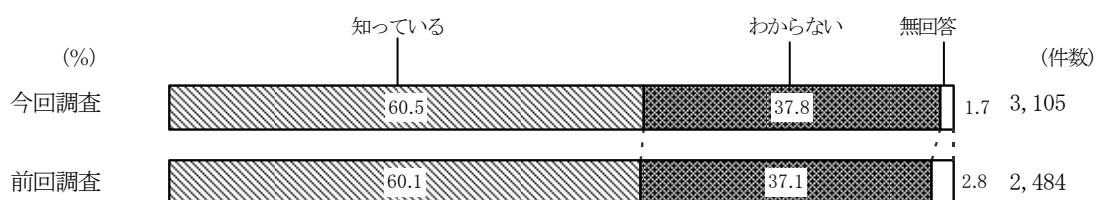


17 適切な食事内容・量の周知度

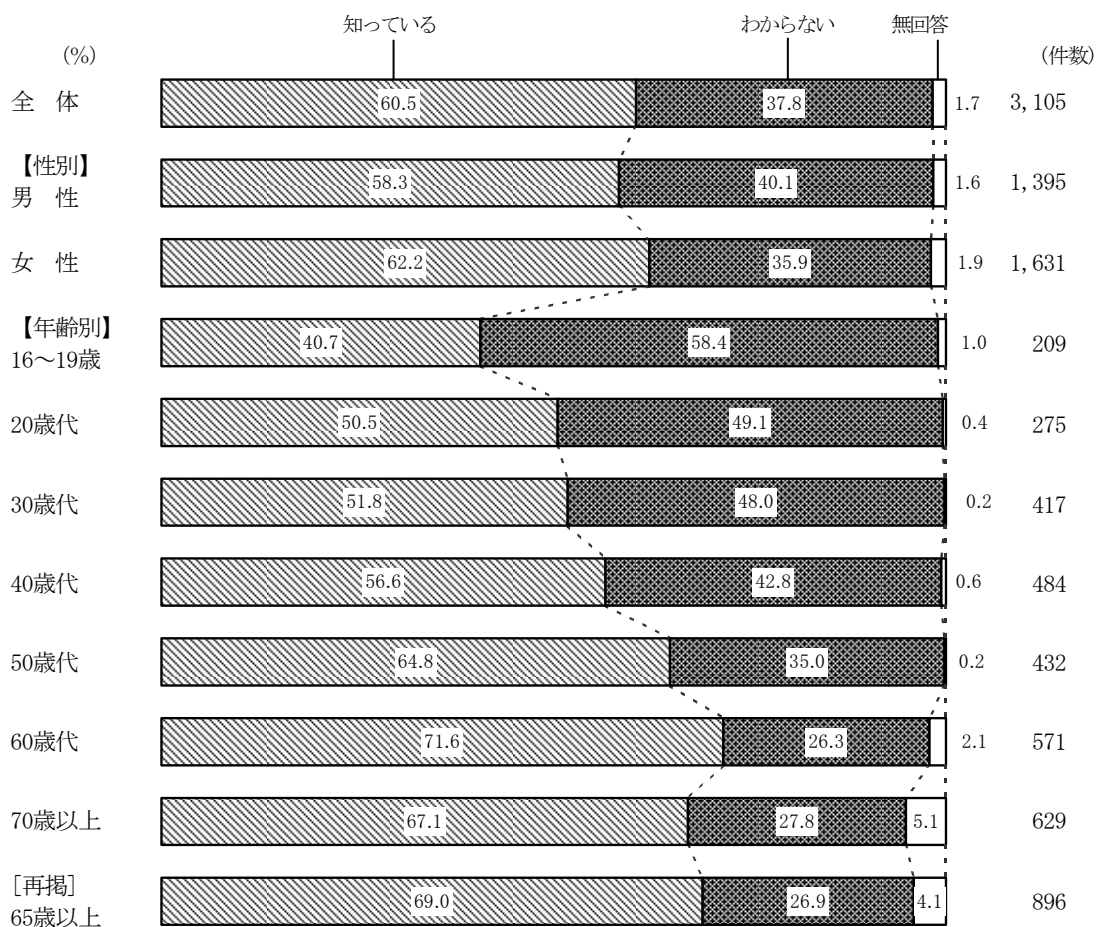
問13 あなたは、自分にとって適切な食事内容・量を知っていますか。(1つだけ)

- 適切な食事内容・量については、「知っている」と答えた人が60.5%、「わからない」と答えた人が37.8%となっている。
- 前回調査と比較しても大きな差はみられない。
- 性別で見ると、「知っている」人は、男性（58.3%）よりも女性（62.2%）で若干高くなっている。
- 年齢別で見ると、「知っている」人は、概ね年齢が高くなるにしたがって高くなる傾向にあり、16～19歳（40.7%）では約4割、60歳代（71.6%）では約7割となっている。

問13 適切な食事内容・量の周知度（前回調査との比較）

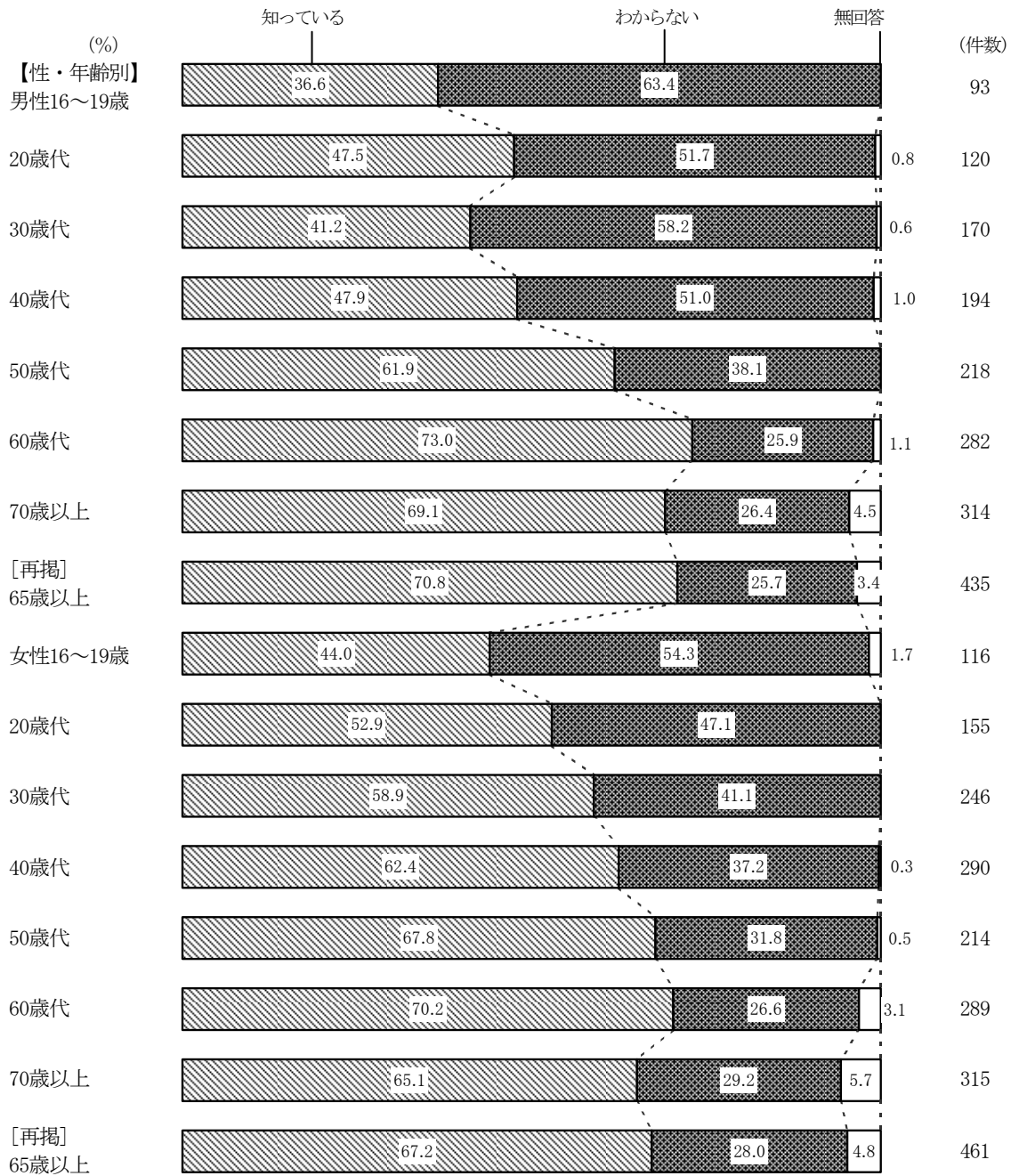


問13 適切な食事内容・量の周知度（全体・性別・年齢別）



- 性・年齢別で見ると、適切な食事内容・量が「わからない」人は、男性の40歳代以下と女性の16～19歳で5割以上と高くなっている。

問13 適切な食事内容・量の周知度（性・年齢別）

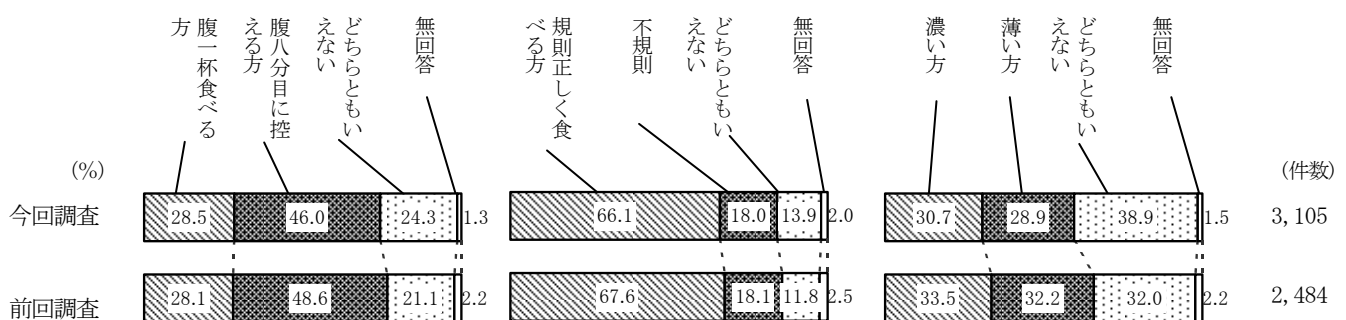


18 食習慣の状況

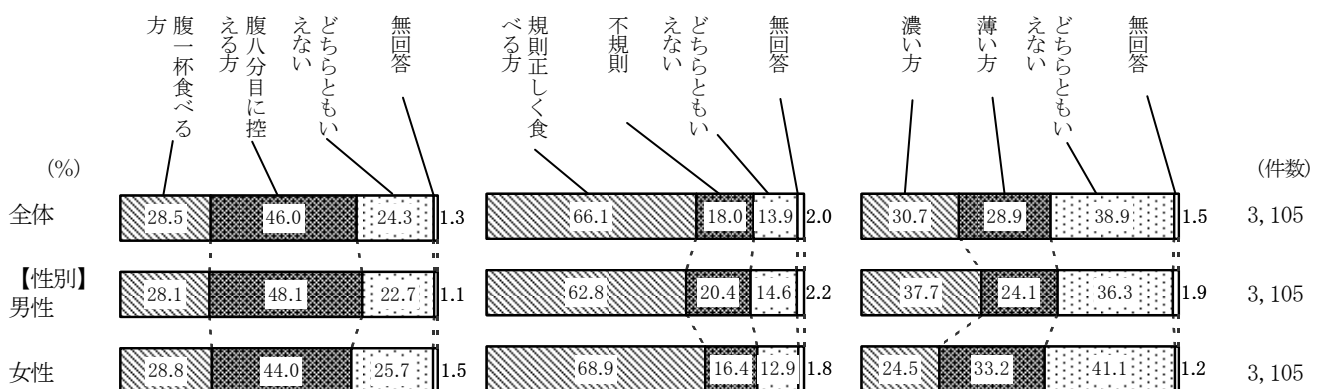
問14 あなたの食習慣についてお尋ねします。(1つだけ)

- 食習慣の状況についてみると、食べる量については、「腹一杯食べる方」と答えた人は28.5%で、「腹八分目に控える方」と答えた人が46.0%で最も高くなっている。
規則性については、「規則正しく食べる方」と答えた人は66.1%で、「不規則」（18.0%）と答えた人を大きく上回っている。
味付けについては、「濃い方」「薄い方」の割合がともに約3割、「どちらともいえない」が約4割となっている。
- 前回調査と比較すると、食べる量については、「腹八分目に控える方」が2.6ポイント低くなっている。また、味付けについては、「濃い方」「薄い方」ともに3ポイント前後低くなり、「どちらともいえない」が6.9ポイント高くなっている。
- 性別でみると、食べる量については、「腹八分目に控える方」は、女性（44.0%）よりも男性（48.1%）で高くなっている。
規則性については、「規則正しく食べる方」は、男性（62.8%）よりも女性（68.9%）で高くなっている。
味付けについては、「濃い方」は男性（37.7%）で高く、「薄い方」は女性（33.2%）で高くなっている。

問 14 食習慣の状況（前回調査との比較）



問14 食習慣の状況（全体・性別）

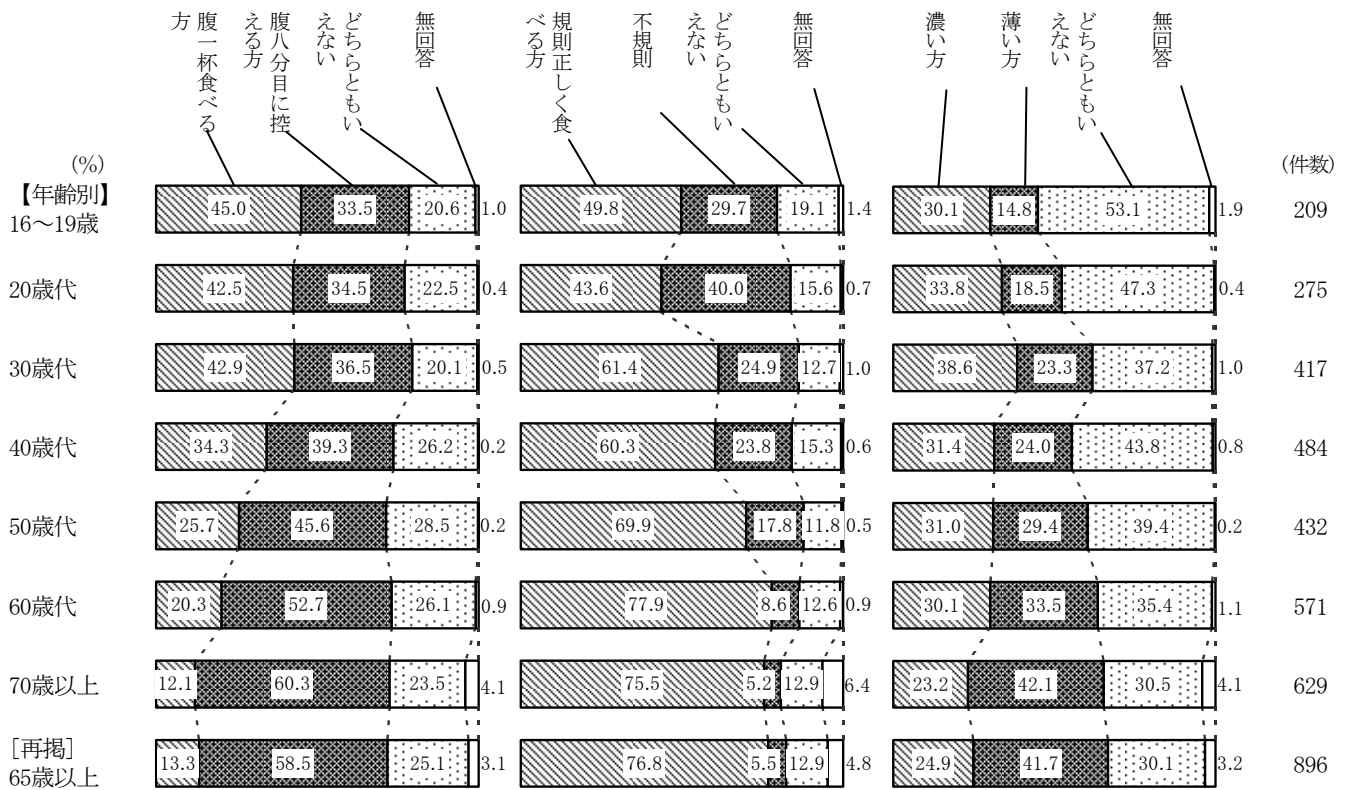


● 年齢別でみると、食べる量では、「腹一杯食べる方」の割合は、高年齢になるにしたがって概ね減少し、逆に「腹八分目に控える方」の割合が増加する傾向にある。

規則性については、「規則正しく食べる方」の割合は、20歳代以降は高年齢になるにしたがって概ね増加している。

味付けについては、「薄い方」の割合は、高年齢になるにしたがって増加している。

問14 食習慣の状況（年齢別）



● 性・年齢別でみると、食べる量については、「腹八分目に控える方」の割合は、男性の60歳代以上、女性の70歳代以上で5割以上と高くなっている。

規則性については、「規則正しく食べる方」の割合は、男性の60歳代以上、女性の50歳代以上で7割以上と高くなっている。

味付けについては、「薄い方」の割合は、男性の70歳以上及び女性の50歳代で3割台、女性の60歳代以上で4割以上と高くなっている。

問14 食習慣の状況（性・年齢別）

